

RSウイルス母子免疫ワクチンの接種を受けるに当たっての説明

1 RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症は、RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。飛沫・接触感染（*）により広がり、何度も感染と発病を繰り返します。特に生後6か月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。生後1歳までに50%以上が、2歳までにはほぼ100%の乳幼児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。

症状は、発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、場合によっては、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てきます。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ぜんめい、ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。

- * 飛沫感染 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、病原体が含まれた小さな水滴（飛沫）が口から飛び、これを吸い込むことで感染します。飛沫が飛び散る範囲は1～2mです。
- * 接触感染 感染している人との直接の接触や、ウイルスがついた手指や物品（ドアノブ、手すり、遊具等）を触ったりなめたりすることで感染します。

2 母子免疫ワクチンとは

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体を作ることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

RSウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンとして組換えRSウイルスワクチン（ファイザー社のアブリスポ®）があります。なお、組換えRSウイルスワクチンのうち、アレックスビー®（GSK社）は母子免疫ワクチンとして用いることはできません。

3 予防接種の効果について

		生後90日時点	生後180日時点
母子免疫ワクチンの効果	RSウイルス感染による医療受診を必要とした下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
	RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症（※）の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※ 医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO2 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

4 予防接種の副反応について

ワクチンの接種後には以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック、アナフィラキシー、発疹、蕁麻疹がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛*（40.6%）、頭痛（31.0%）、筋肉痛（26.5%）
10%未満	紅斑*、腫脹*
頻度不明	発疹、蕁麻疹

*ワクチンを接種した部位の症状

5 接種方法について

- 対象者：接種時点で妊娠28週0日から36週6日までの妊婦
過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ®）を接種したことがある人も対象です。
- 接種回数：1回
- 接種費用：無料（対象の妊娠週数から外れた場合は有料）
- 実施期間：通年
- 接種場所：受託医療機関で個別接種
- 持ち物：現在妊娠中の胎児の母子健康手帳、本人確認書類（マイナンバーカードなど）

6 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ 組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ®）に含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある人

7 予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された人や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された人
- ② 筋肉内に接種をするため、血小板減少症、凝固障害を有する人、抗凝固療法を施行している人
- ③ 組換えRSウイルスワクチン（アブリスボ®）の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- ⑤ 授乳を行っている人
- ⑥ 心臓、じん臓、肝臓、血液の疾患等の基礎疾患がある人
- ⑦ 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- ⑧ 過去にけいれんを起こしたことがある人

8 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、海外の知見で、百日せき菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で、百日せき菌の防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があり、接種間隔等については医師と相談してください。

9 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 接種後、一定時間（30分程度）は体重を預けられる場所に座るなどして様子を見てください。
- ② 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動を避けるよう注意してください。
- ③ 予防接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種後、接種局所の異常反応や体調の変化がある場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

10 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種では、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。

極めて稀であるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

予防接種によって健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、予防接種法に基づく救済（医療費・医療手当等）が受けられます。

申請手続きについては、保健予防課へお問い合わせください。